

---



---

 学 会 記 事
 

---



---

## 第 269 回新潟循環器談話会

日 時 平成 23 年 12 月 10 日 (土)  
午後 3 時～6 時  
会 場 新潟大学医学部 第五講義室

### 一 般 演 題

#### 1 救命できた aborted sudden death の集計

林 由香・藤木 伸也・萱森 裕美  
渡辺 達・園田 桂子・飯嶋 賢一  
小田 雅人・佐藤 光希・小幡 裕明  
和泉 大輔・小澤 拓也・渡部 裕  
柏村 健・伊藤 正洋・古嶋 博司  
廣野 暁・池主 雅臣・塙 晴雄  
小玉 誠・柳川 貴央\*・本多 忠幸\*  
遠藤 裕\*  
新潟大学大学院医歯学総合研究科  
循環器学分野  
新潟大学医歯学総合病院高次救命  
災害治療センター\*

【目的】当院に搬送された院外心肺停止 (CPA) 患者の現状を検討した。

対象と方法：2010 年 1 月 1 日から 2011 年 10 月 30 日に新潟大学医歯学総合病院救命救急センターに搬送された CPA 患者 225 例のうち、心原性によると考えられた連続 135 例 (平均年齢 73 歳 (24-95 歳), 男:女 87 人:48 人) を対象とした。データはウツタイン方式に基づき収集された当院のデータベースより収集した。

【結果】135 例中、一時的心拍再開は 48 例 (35.6%) で得られ、その 48 例中 22 例 (16.3%) は 1 週間以上生存していた。またこの 22 例中 14 例 (10.4%) で生存退院が可能となり、そのうち 12 例 (8.9%) で社会復帰を果たした。12 例の基

礎疾患は虚血、心筋症、特発性 VT などさまざまであった。初期調律が心室細動、目撃がある、自己心拍再開まで時間が短い、といった特徴があった。

【結語】当院に搬送された心原性によると考えられる CPA 症例においては、8.9% で社会復帰可能であった。

#### 2 1 年間で急激な心電図変化をきたしたサッカー ジュニアユース選手について

沼野 藤人・渡辺 健一・羽二生高訓  
鈴木 博・齋藤 昭彦  
新潟大学医歯学総合研究科  
小児科学分野

症例は 14 歳、男子。家族歴に心疾患、突然死のものはいない。

出生時から中学入学まで特に心疾患を指摘されたことはなかった。小学校 4 年生より J リーグチームのユース選手として 2 時間の練習を週 4～5 日行っていた。

2010 年春、中学入学時の学校心臓検診にて aVF の陰性 T 波を指摘されたが、診察にて異常所見なしとされ、管理区分 E 可のうえ 1 年後再診とされた。

2011 年春、再診時の診察で心雑音を指摘されたため、2 次医療機関を受診した。動悸、易疲労、呼吸困難などの症状はなく、サッカーの練習を継続していた。受診時の心電図では II, III, aVF, V3-V6 の陰性 T 波、V1-V3 の ST 上昇を認め、V2 誘導では R = 3.0mV, S = 6.7mV と異常な高振幅を認めた。心エコーでは左室拡張末期径は 48.8mm (104% of Normal) と拡大は認めず、心室中隔拡張末期厚は 15.8mm, 左室後壁拡張末期厚も 13.5mm と肥大を認めたが、非対称性中隔肥大や心尖部の心筋肥厚はなかった。MRI では左室壁全体の肥厚、左室腔の拡大、心室中隔の一部に内膜側から中間層に及ぶ遅延造影を認めた。

急激に増悪した心電図所見は左側胸部誘導の巨大陰性 T 波であり心尖部肥大型心筋症が疑われたが心エコー、MRI 所見からは確定に至らなか